

上県総合運動公園の駐車場、これがプールの駐車場に4台分設置してあるということです。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。この件については、教育委員会関係だけではなくて、これから全式典が開催されるイベント等においても、障害者は守ってほしいという気持ちがありますので、ぜひこれからもそういうイベント等、大きな式典等がある場合は、駐車場のスペースをぜひ造っていただきたいと思いますと思っております。

近年は空港、ターミナル、スーパー、金融機関、あらゆるところでこの障害者用の駐車スペースはもう造ってありますので、スポーツ大会のイベント等についても、ぜひ、それは実施をしていただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

これで、今日の質問は、私は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで坂本充弘君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は、1時5分からといたします。

午前11時48分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。入江有紀君、船越洋一君及び小宮教義君から、早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、お疲れさまです。13番議員、政友クラブの波田政和でございます。1期4年間、今期の議会、任期最終の本会議一般質問となりました。思い起こしますと、議員として市民の皆様方から信託をお受けし、議会活動に取り組んでまいりましたが、市民の皆様方が納得いく答えを出せなかったのではないかと深く反省をしております。

次の世代の人材へ議員の役割を確実につなぐことが、現職議員の責任と考えますことから、前回の議会の質疑の中で、議会改革を求める意味で、次世代のために若い力の出馬を求めるとの発言をしておりましたが、なんと、対馬市議会始まって以来の若い人材の方々の挑戦を見聞きしたとき、とうとうその時が来たんだと感じております。私は先輩議員として、襟を正し、対馬改革にさらなる挑戦を決意するものであります。どうぞよろしくお願いいたします。

本題に入る前に、前回の質疑の中で、通称横町線の横町橋周辺整備の安全対策で早急な対処をお願いしていた件でございますが、緊急処置として町並みに調和の取れたカーブミラーを左右に設置していただき、御利用者皆様方が喜んでおられますので、ここで御報告をしておきます。あ

りがとうございました。

また、別件ではございますが、地域の皆様方から伝言を預かってきております。ここで紹介させていただきます。

それは、久田地区の市道堀田線通学路緊急対策推進工事での早期着工・完成で、利用者みんなで意識改革ができたとの報告が届いておりますので、重ねて感謝をお伝えしておきます。

そこで、確認なのですが、先ほど市長に写真を渡したとおり、通称グリーンベルトラインは、通学時間帯の専用ラインとの認識でよろしいのでしょうか。その場で答えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この通学関係の専用ベルトということと、それとまた、もう一点が、ここを通行する車のスピードの抑制といった大きな目的がございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。この地域の声なんですけども、今、市長の説明があったように、こういった内容をもう少しどういう形でか周知をしてくださいということなんです。だから、またお互い利用する人だけじゃなくて、こういったものの捉え方などをよろしくお伝えができるような体制を取っていただきたいと、このように思っておりますので、よろしくお願いします。

では、通告しておりました巖原南部地域アクションプランについてお伺いします。

まずもって、アクションプランの策定委員の方々の労苦に感謝はしております。これまでの取組や今後の進め方など、地域の主導の下、エリアごとに優先度の高いものから進めていく、そのようなことを明文化がなされており、実行されていくものと信じておりますが、今回確認したいことは、豆殿地区の豆殿住民センター整備事業でございますが、現在は建屋解体と進んでいるのですが、もともと地区の集会や行事ごとに使用する大事な施設であることから、住民センター完成までの期間、代替施設などは検討がなされ進んでいるとは思いますが、住民サービス低下にならないための対策を問いたいと思いますので、よろしくお願いします。

続きまして、質問の2番目といたしまして、私ども議会も残すところ2か月余りで任期満了となることから、1期4年間を振り返りますと、行政をサポートし、議会の権能であるチェック機能が十分に発揮できたのか、おのおのが考えるべきであったのではないかと私は思っております。

コロナ大流行から経済が低迷し、生活スタイルの変化への緊急対応が十分になされたのでしょうか。

時代とともにコロナは終息の方向へ向かいつつありますが、なかなか経済は上向きになりません。

短期から中・長期と、これまでになかった施策や対策を示すべきではないかと思っております。

また、今期最大の出来事は、対馬市政の歴史に残る核ごみ誘致施設の議会議決であったのではないのでしょうか。

幸いにも、比田勝市長様の勇気ある、誘致反対決断で、島内分裂の危機も避けられ、表面上は落ち着いてきたようにも見えますが、くすぶる火種を断ち切り、風評被害にも動じない、安心して安全な島づくりを、行政と議会で統一見解し進むためにも、市長判断の正しさを説明したらいかがでしょうか。

もちろん、市長判断が正しかった証明としましては、議会採決後の市長選での圧勝が全てを物語っているように思っております。

参考事例として取り上げることは誠に申し訳ございませんが、今から申し上げることを御理解ください。

まず、佐須地区の対州鉱山を例としまして、自然の資源活用で一大産業と発展はしたものの、残ったのは公害や土壤汚染、現実の姿であったのではないのでしょうか。

先人の負の財産を二度と体験することがないように、確固たる法の整備にそろそろ着手しようではありませんか、いかがでしょうか、よろしくお願いします。

後ほど再質問で深めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、厳原南部地域アクションプランの進捗状況についてでございますが、先日の糸瀬議員の御質問に対する答弁と重複いたしますが、御了承願います。

本アクションプランは、令和4年2月に策定し、厳原南部の内山、瀬、豆酛、浅藻、内院の5つの地区を3つのエリアに分け、地域の持つ優れた自然環境や社会環境を地域独自の貴重な資源として有効活用し、厳原南部地域の活性化を図っていくための行動計画となっております。

その推進につきましては、地域住民が主体となり、地域と行政が協力して取組を進めていくこととしております。それぞれの果たすべき役割や、実施していく事業などについては、エリアごとに協議・検討を行い、優先度の高いものから取組を進めてまいります。

現在のところ、これまでの地区との協議の中で多くの御意見をいただきました厳原南部地域全体の情報発信拠点となる豆酛住民センターの建て替え事業を進めているところでございます。

その他の取組につきましても、毎年度当初に各地域の代表の方との会議を開催し、各地区からの御意見等を聞き取りながら、地域マネージャー制度の活用などにより実施しております。

今後につきましても、地域と行政が一体となって取組を進め、地域の好循環を生み出すことで厳原南部地域全体の活性化を図ってまいります。

なお、先ほどの冒頭質問の中でこの豆酛住民センターの代替施設のことも質問を受けました。

このことにつきましては、私のほうには、この工事期間中につきましては、豆殿の漁協の施設を利用することが適当であろうということまで私のほうには報告が上がっているところでございます。

次に、特定放射性廃棄物最終処分場に係る文献調査に対する私の判断及び今後、火種を残さない安全・安心な施策の考え方についてでございますが、まず初めに、令和5年9月定例会の閉会時において、文献調査に対する私の判断を議員皆様に御報告し、同日、記者発表をさせていただきました。

この判断から今日まで、1年半が経過しようとしております。この間、国内外の社会情勢や本市の状況は日々変化してきております。

私自身もこの期間中、判断について自問自答を繰り返し、また、新聞社等から受け入れない判断について再度問われることがありました。

その都度、当時の判断を振り返ることがありますが、以前、御説明いたしました5つの要素を深く熟慮した判断は、今もなお、後悔のない、的確な判断であり、一切の迷いはありません。

今後も、この姿勢を貫き、市政運営に邁進してまいります。

次に、特性放射性廃棄物問題について、火種を残さないためにも、安全・安心な対馬市へと導く施策の考え方についてでございますが、この考え方は、地域住民や市民団体などが主体となり、これに市民の代表であります市議会議員の皆様の力が加わり、協力して取り組むことが、まず重要と認識しております。

その上で、行政が一方的に火種を消すのではなく、繰り返しになりますが、市民、市民団体、事業者、市議会議員の皆様と共に考え、意見を交わしながら進めていく姿勢を今後も大切にしたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久蔵君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。それでは、1つ目の質問の中で、アクションプランの中身じゃなくて、私はアクションプランといえば行動を起こす設計書のことを聞いているわけではございません。何を聞きたいかという、いろんなものを、今回は豆殿の住民センターを例えましたけども、代替施設の話もそうですが、先ほど市長に出した中に、このセンターが使えないからセンター業務を止めて本庁に來なさいという案内が来ていたわけです。

私は、こういったものは、これは申告の話ですね。事前に分かる話ですので、今、市長の話の中では漁協施設なんかを使ったりという話が来ておりますということなんですけども、まずもって、今、工事がスタートして、最初にあるこういう出来事さえすら、住民サービスが低下していることに私はなと思うんですが、その見解をまたお聞きしたいんですけども、市長がいつも話の

中で、特に豆殿地区に関しては、もう最終じゃないですか。だから、それから先何もないので、あそこも下地区で一番戸数の多いところですよ。そう考えたときに、私とすると、センターが使えなくなる期間は代替施設があると今言われた以上は、そこに職員が出向いてでも代わりの業務をするのは当たり前ではないかと思っているんです。それが住民サービスじゃないんですか。市長、そこはどうでしょう。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、この豆殿住民センターでの住民税の申告業務につきましては、今回廃止をされて、本庁のほうでその業務をするということを通じたという報告は私のほうにも上がりました。

詳しいことにつきましては、この後、ちょっとまた担当部長のほうに答弁させたいとは思っておりますけれども、今回急なこととは申せ、一部の方たちに御迷惑をおかけしたということは、私のほうから率直に謝りたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長、市長に謝ってくれと言っているわけではございませんので、取りあえず先に。

○議長（初村 久藏君） 市民生活部長、村井英哉君。

○市民生活部長（村井 英哉君） お答えいたします。

ただいま市長のほうからおわびの言葉がありましたように、豆殿地区での税の申告ということで、今年度、住民センターが解体ということもありました。それに代わって、新たな代替場所ということも考慮することになっておりまして、区長への通知文だけというような形が現状としてございました。やはり、そこは、今、波田議員がおっしゃいますように、地元の区民の皆様にも十分理解していただけるような、お願いできるような形で事前に説明をしまして、そして承諾をいただくというのが筋かなと思っております。議員のおっしゃるとおりだと思います。大変申し訳ございません。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 今回は豆殿を例題にしましたが、今後、全島的にプランが動き出す以上はこういったことは多々あると思うんです。そういったことから今回一事例として話をさせていただいております。だから、サービスが低下するとプランも生きてこないと思うんです。だから、全島網羅してやるわけですから、手落ちもあることは重々分かっております。

ただ、今回のような問題は本庁に来なかったら職員が行かないかんわけですから、逆に。同じことなんです。そういったことがありますので、今回この点は取り上げさせていただいておりますので、しっかりフォローをよろしく願いしておきます。

市長、それでよろしいでしょうか。いいですか。

それでは、質問の2番目といたしまして、この核ごみの問題の話をぶり返すわけではございませんけれども、私は市長判断が正しかった証明、まだ証が、形がないと思っております。なぜなら、市長判断が行われた後に市長選挙が行われました。普通なら首長が正しいか正しくないか、信を問わなくちゃいけないんです、本当は。

しかしながら、信を問う選挙にもならなかったです、事実上。推進賛成派から住民投票も辞さない、そういう動きもあったと伝わってきております。だから、私は楽しみにしておりました。

しかしながら、言うように、比田勝市長の圧勝で、私は当然の結果と思っておりますけれども、こういう答えが出ましたよね。どうですか、市長、その考え方、感想でもいいですが、そのことに関して何かありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） さきの市長選挙におきましては、確かに一方の方が特定放射性廃棄物のほうを、ここ、対馬に誘致するといったことで立候補されたものというふうに思っておりますが、一方、私のほうは、この特定放射性廃棄物につきましては、ここ、対馬市で、まず文献調査も受け入れないといったようなことで、さきの市長選挙のほうにも立候補させていただいた。その上で、受け入れないとした5つの要素の理由も述べながら、市民の方たちにこの市長選挙で問うたというようなことになったと思っておりますけれども、そのことにつきましては、市民の皆様も私の意見にある程度の賛成の意をいただいた上で、あのような選挙結果になったのではないかと考えたことを思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） まさにそのとおりでございますが、市長、ここでもう一度考えを元に戻してください。

私が以前から話しますように、市長が早期で決断しとったならば、いいですか、先ほども話があっていますが、皆さんがしっかり考えをまとめて、時間をかけながらやってきた、結果としてこういうことであつた、ここは正しいんです。しかしながら、市長選挙、数千万円もかかっただけです。市長が早期に決断しとったならば、そういう無駄金もなかったんじゃないかなと、後の祭りです。可能性があるじゃないですか。なぜなら、一騎打ちだったわけですから、賛成か反対かで。しかし、市民は皆さんは、市長に、比田勝尚喜さんに投票した結果でございました。ということは、そういった我々がチェック機能における人間からしますと、もう今後無駄なお金が使わなくていいように、早期な判断決断を実は望みたいものですから、あえてこの話をしております。もう一度、どうですか、そこで。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 早期に決断をすれば、またその場面等も変わったのではないかといったような御質問だというふうに思っておりますけれども、私といたしましては、やはりここは市民の方たちが本当にどのようなことを望んであるのかといったことを最後の最後まで、ぎりぎりまで見極めるためにも早期の判断はせずに、市民の最終的な意見を聞き入れた上での判断としたという御理解をしていただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、要するに、市長の判断が正しかったということが表に出ておりますが、だからこそ、もうそういったことで市民を悩ますことがないように、新たに早期で法の整備を提案をしております。ここはどうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 恐らく、この特定放射性廃棄物等の持込み条例の関係だというふうに理解をしておりますけれども、このことにつきまして、やはりこのことについては先ほどもちょっと答弁をいたしましたように市民や市民団体、そしてまた事業者や市議会の皆様の御意見を広く聞き入れた上での判断になってこようかというふうに思います。これが私のほうがここら辺の意見を聞かずに、行政が主体とするのではなくて、やはりそこには市民、市民団体、そして市議会等の意見を交えた上での判断としてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） なるほど、市長、市議会は10対8で負けたんです。今の話では、市議会の意見を聞くというなら、市長は賛成せんばいかんじゃないですか。だから、そのことはもう終わったわけです。しかしながら、地方自治上、首長が言うとおりでということになっとるじゃないですか。これからそれをずっと引っ張ることが、どうなんですか。市長が交代すればまた再燃してきたらいかんじゃないですか。そういう意味から、今、条例の話がはっきり出しましたが、まさにそのとおりだと思います。市長も市民も議会もみんな一緒になって考えながら進んでいくことが大事だと、今まではそうやったんです。しかし、もう決着がついたから、ついたじゃないですか。そしたら市長の代で、先ほど例題を挙げましたが、後にそれを引継ぎたくないのはいかがでしょうとかという問いをしているんです。また同じことを言いますか。もう一度、お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今回のこの3月の議会での一般質問ということでございますし、この5月には新たな市議会議員選挙も予定もされております。そういうことで、この議会後、次の市議会選挙までの間にこのようなことを組み立てる、構築するということはちょっと困難でありますので、その市議会の関係につきましては、やはり次の市議会議員の構成、そしてまた新たに議

員となられた方々の意見を広く聞く必要もあるのではないかといったことから、そのような答弁といたしております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、市長もあちこちからインタビューを受けてあると思いますが、この核ごみの問題に関したら石破総理も謝罪をするぐらいの重要案件なんです。ニュースにもなっておりますが、それだけに真剣に考えなくてはいけないということは分かっております。分かっているんだけど、市長が3期目でも4期でも関係なく、自分の時代に決着をつけなくちゃいけないことはつけてほしいと言っているんです。

今言われますように、私ども5月18日に市議会選挙が行われます。そういった中で、先ほどの話にありますように誘致賛成派、反対派、新人も巻き込み、今回は住民投票に匹敵するぐらいの直接選挙で信を問うようになるんです。これでいいんです。

しかしながら、そういう中でも市長の答えは変わらないわけですから。そしたら、もう一步深めたほうがいいじゃないですか、ということを私は問いかけております。それは、こういう私でさえ、次またこういうことがあるかないかよく分かりません。しかし、頑張って負託に応えられるように、全員ここにおる人たちは出てくると思うんです。そうでなくちゃいけないし、私どもが議員として自分たちが出した答えが、自分が在籍しとる間は責任を持つべきだと思っているんです。だから、こういう話になっております。

そういったことから、今回この問題に関しては、今、市長の言うとおりの新しい改選期が来てから、またいろいろ考えましょうというような話でありましたけども、それは私どもの話であって、対馬市長は変わりません。あと3年変わらんですからね。そうなってくると、何も一緒のことじゃないですか、言っているのが。私は、そういった意味でもう二度と分裂するような話は止めましょう、ということが私のお願い事なんですけど、もう一度、市長、ここは言いづらいとは分かります。答えにくいですね、確かに。議会で負けているわけですから。しかし、首長さんの一声には勝たないわけで、幾ら議会がどう言おうと。それが現実の姿でございますので、そこを強く持って、同士はたくさんおるわけですから、よろしくお願いしておきます。どうですか、市長、もう一度そこで、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私は、昨年9月議会の閉会時にもここで述べさせていただきましたし、またその後の記者会見の中でも申し述べましたが、要は議員おっしゃられるように、私はこの対馬の中の市民の分断を何とか収めたいといったことを強く申し上げました。そして、最終的にはあのような判断をしたわけでございますけども、そのことで今度の市議会議員の選挙のほうで、私がこのような判断をしていることは、もう既に皆様御承知のことでございますので、この

ことでいろいろ市民に問う候補者の方もいらっしゃるかとは思いますが、私が直接、私は反対ですから、その候補者の方にどういったような介入は避けなくてはならないのかなという思いを持っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、私の耳がおかしいのかな、介入してくれと言った覚えありませんが。いっつも比田勝尚喜は変わりませんと、死ぬまで、考え方は。だから、こういう話になっているわけです。介入しよらん、お願いされたとは言われてないって言ってください、市民が誤解したらいかん。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 申し訳ございません、私の言葉足らずで。介入といったようなことはございません。申し訳ありませんでした。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 私がここをなぜ今回取り上げましたかと言うと、要するに何十年前もこういう話がありまして、また佐須の話もさせてもらいました。良い悪いというのは私たちの時代じゃないから分かりません、それは。一番怖いのは風評被害じゃないですか。対馬は四方を海に囲まれていますね。1発で終わります。ものがない悪いということは別の次元の話ですから。そこを考えたなら、どうあるべきかなということです。市長を守るわけではございませんが、一地方の首長の判断するレベルの判断じゃないです、これは。国が直接やるべきじゃないですか。あちこちでもその話はあっています、たくさん。あっているんやけど、幸か不幸か、どこでか防波堤にならないといけないから、今、比田勝尚喜さんやったわけです。だから、比田勝市長がそこに座ってある限りは安心しております。しかしながら、我々もいつまでおるか分らないじゃないですか。市長そのものも分かりませんよね。

そういった中で、自分の時代のことは自分の時代で責任を取ろうというのが、普通の考えであるべきじゃなかろうかなと思うからこそなんです。

そういったところから、ほかの核廃棄物中間貯蔵施設の話もニュースに出ておりましたが、もう予算に組み込んで云々かんぬんという請求をしてあるところあります。

そういった中で、それはもう次元の違いでいいんです、そこは。いいんでしょうが、基本的に自分の家から出たごみを他人にやる人は誰もおらんです。ということは、対馬がというわけにはいけませんけど、恩恵を受けたところが危なくなければ、受けりゃいいだけの話です。それはできない状況がいろいろあるんでしょう、専門的な話とか。私はよく分かりませんが、形としてはそうじゃないかなと思っております。だから、対馬市は、比田勝さんが市長の間は絶対通らんということをみんな理解したわけです、先ほどから話があるように。市長判断が正しかったか

ら圧勝で終わったわけです。市長、なかなか辞められませんよ、あなたは3年経っても、そういうことやったら。議会もそうですけども、後継者は後を譲っていかなくちゃいけない。その場合に決着をつけていきたいな、このように思いますが、私の答弁で結論をくださいとは言いませんので、前向きに判断をもう一度聞きたいです。いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことに関しましては、冒頭も答弁いたしましたように、現在、私も決断に迷いはありませんし、今後もこのようなことで進めてまいりたいという決意を持っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長がここで発表しなくとも心情はよく理解しております。しかしながら、そういうことを待っている人もおられますので、安心・安全な暮らしを守るために。

それでは、最後に、市長に幾ら問うても駄目なれば、対馬市民に問うときますから、お聞きください。

最後に、対馬市民の皆様方へ最終のお願いを申し上げます。今回、対馬市議会議員選挙があります。市民皆様が選挙へ直接参加で対馬の将来を左右します。そういった意味から、重要案件がくすぶる中、住民投票にも匹敵する選挙になります、してほしいです。だから、政治を市民の手に取り戻すためにも、縛りを捨てて、政策重視で次の時代の人材に期待して育て、安心・安全な島づくりを勝ち取ろうではありませんか。よろしくお願いいたしまして、私からの全体質問を終わりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました、市政一般質問は終わります。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

午後1時46分散会

---